



長野県建築士会

佐久支部

らくし又



佐久の花酒造・看板

佐久の蔵元

一和醸良酒一

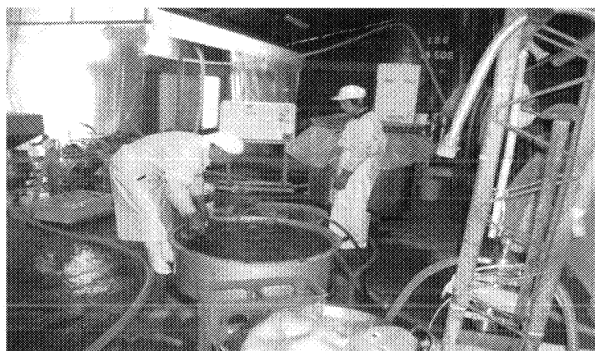
佐久の花酒造株式会社

佐久市下越 620

米・水・蔵人、三位一体の調和。明治25年創業。

良い酒米・良質の水・蔵人の三位一体が調和するところに酒がある。

「和醸良酒」を合い言葉に結ばれた、蔵元・酒販店・消費者のトライアングルを形成し、佳き酒を醸し続けています。五味（甘味・辛味・渋味・醸味・苦味）をそなえた爽やかな酒を造りつづけている。



作業風景



酒樽



看板

支部長あいさつ	2
課長のあいさつ	3
会員の活動	4~8
事業中間報告	9
特別寄稿	10
着任挨拶	11
三団体合同旅行	12
会員の声	13
文化賞	14
事務局より	14

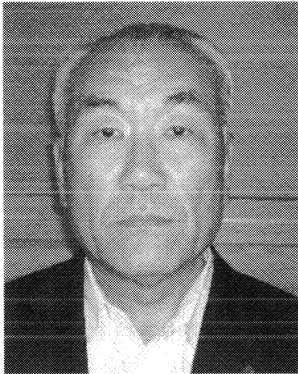
モクジ

新年のご挨拶

(社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 重田 元一

問



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと3月11と12日未明に起きました大災害にも皆様の前向きな協力により支部としての結果をだす事が出来ました。改めて御礼を申し上げます。被災された皆様には、この寒い冬を元気で過ごしていただき、これから本格的に復興が始まれば出来る事があれば何かお手伝いをしなければと思います。

4月より会計が本会取扱いとなり事務職員も本会の雇用となりましたが、支部としての事業計画も皆様のご協力により、予算も含めて事業も計画通り消化出来ていると思います。

今、一番の関心のある建築士会の進むべき方向ですが、去る12月の理事会にて、法人の選択について審議され佐久支部の意に反して、長野県建築士会は、平成25年4月1日を目処に一般社団法人へ移行するという案が決定されました。県全体として総支出金額に対し公益目的事業比率が50%以上であり続ける事が出来る社団法人組織だけが公益社団法人として認定を受けられるという事ですので、15支部それぞれ活動、又考え方の違いから色々な問題を抱えたまま、無理をして公益法人に移行しても、これから先県全体として公益事業比率50%を持続できるという確証は無いという結論に達し(：現時点での公益事業比率は全体で25~30%)一般法人に移行し、今迄通りの事業活動しながら諸問題を考え、見直していかなければという事となりなした。会費統一の件では、佐久支部は現在の会費のままで良いと申し上げておきました。なぜかという会費が上がった支部が、上がった分だけ事業活動が出来るかと疑

に思うのと、支部の予算も本会で組まれてしまうと思ったからですが、これからも各支部で予算組は出来るとの事です。今迄20数年間やってきた佐久支部としての伝統ある事業又活動は、どんな事があってもやっていかなければと思います。そういう考えの元きちんとした予算組をし、なおかつ支部の財政も豊かにしてゆく事が、私達に架せられた使命であると考えます。

進むべき方向が決まった今、新しい法人移行しても今まで通り、佐久支部としての特色ある支部活動又運営が出来るか、皆様のご意見を聞きながら、色々な事を進めて行きたいと思えます。なおいっそうのご協力をお願い申し上げます。

今年こそは、災害の無い穏やかな年であると共に会員の皆様の辰年にちなんで大いなる飛躍を心から御祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 矢澤 博



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は県の建築住宅行政を始め、県政全般にわたり格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最初に昨年の佐久地域景観賞におきましては、近年になく多くの皆様にご応募をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在県では平成23年度（～平成32年度）を初年度とする「長野県住生活基本計画」を改訂中ですが、社会経済が大きな転換期を迎える中で、「心の豊かさが実感できる住まいづくり」をめざして、基本理念や基本的な視点、主な取組と達成目標などを策定することとしておりますので、ぜひご覧頂き（参照：長野県公式ホームページ）、皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年3月に発生した東日本大震災や長野県北部地震においては、被災地に甚大な被害をもたらし、現在も多くの被災者の方々が仮設住宅での生活を強いられており、原子力発電所の事故は、更に広範囲の地域に深刻な影響を与えております。

このような中、いつ発生してもおかしくないと言われる大規模地震の発生に備え、建築物の耐震化は喫緊の課題であり、耐震化を推進する施策を着実に実行しなければならないと考えております。

一方、経済指標の一つとされる新設住宅着工戸数については、昨年とほぼ同様の状況にありますが、県においては県内経済の下支えと雇用

確保を図るため、数次の補正予算を組むなど、その対策を講じているところであり、一日も早い経済・雇用状況の好転を期待したいと思っております。

厳しい経済状況が続いておりますが、建築士の皆様には、社会から期待される専門家としての優れた知識と経験を生かし、良質な社会ストックの形成と良好なまちづくり・景観育成活動などを通じまして、地域社会の発展に一層貢献していただきますようご期待申し上げます。

今年こそは明るい年になるよう期待するとともに、（社）長野県建築士会佐久支部の益々のご繁栄と会員の皆様の大きい飛躍を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

建築士ネットワーク・さく2011

技術研修会

『新エネルギーの未来～小水力発電』

講師：(社)山梨県建築士会 山根 健 司氏

情報広報委員会 小林 夕起男

3月11日に発生した東日本大震災は、大地震と津波により東北地方に甚大な被害を与えました。また、震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により、電力不足、放射能漏れは今も日本に大きな影響を与えています。その中で講師に数々の小水力発電の計画から設計まで手掛けている(社)山梨県建築士会山根健司氏を迎えての、技術研修会「新エネルギーの未来～小水力発電」は、これからのエネルギー開発のあり方についてとてもタイムリーで興味深い話を聞くことができました。



講演の内容は、

1. 小水力発電とは

日本の電力業界では従来から「10,000 kW 以下」を小水力としてきた。日本の法律では新エネルギー法(2008年4月施行)により「1,000 kW

以下」の小水力発電は「新エネルギー」に認定され、これにより、地方自治体の小水力導入の場合は「1,000 kW 以下」となる。

小水力は、貯水池式などの大規模ダムとは別に、河川を流れる水を貯めることなく発電に使用する流れ込み式、水路式の発電方式である。また、小水力はこれまで電力会社を主体とした開発と異なり、地域による地域のための開発であり、国内の市場はまだほとんどなくこれからの伸びが期待される産業である。

2. 小水力開発の必要性と意義

現在日本のエネルギー源のほとんどは海外からの輸入に頼っている。水力発電は貴重な純国産エネルギーであり、他の発電方法に比べてCO₂排出量が最も少ないクリーンエネルギーである。また、石油などの化石燃料は限りあるエネルギーであり、地球温暖化対策の面からみても、小水力の発生するエネルギーは次世代に残す無限の再生可能エネルギーである。

3. 小水力発電の基礎知識

太陽光、風力と比較した場合、長所として安定した運転が可能であり、設備利用率が高く、経済性が高い。短所として設置地点が限られており、法的規制があり法的優遇処置がない。また、小水力の発電出力は水の持つエネルギー(落差と流量)で決まる。

小水力の発電設備の概要として、土木設備、発電所建屋、機械設備、電気設備に分けられる

が、設置場所や設置条件等により、構成が大きく異なる。

4. どんな場所に適用できるか

日本の国土の70%は山間地であり、降雨量はヨーロッパの約2倍である。特に長野県は水力発電に適した地域である。また、一般河川、溪流の砂防ダム、治山ダムは山間地の至るところにあり、落差、水量ともに小水力の有力地点である。農業用水路は日本の至る所にあり、エネルギーの宝庫である。他に、上下水道の減圧弁の代わりに水車を、下水の放流箇所にも水車を利用。工業用水、排水の減圧弁の代わりに、排水放流箇所に水車を利用し、工場内電気として利用することができる。また、既設の治水ダムは高い落差と安定した水量が得られる優良地点である。

5. 小水力発電の導入

小水力開発のステップとして、地点の発掘、可能性の調査→基本設計、法的許可等の事前調査→実施設計、法的許可申請→建設工事、完成、電力会社との手続きとなる。

法的手続きについては、河川法、電気事業法、建築基準法、自然公園法、砂防法など設置地点、発電規模により各法的手続きが必要となる。また、電力会社の配電線に接続して運用するための系統連系、売電契約手続きなどが必要となってくる。

現在、再生可能エネルギーの全量買取制度導入に伴い、補助制度の廃止や大幅見直しが行われている。

6. 水車の種類と選定

水車の種類にはペルトン水車等様々な種類があり、計画地点の落差と流量により適用できる水車を選定する。

7. 導入事例

地方自治体の導入事例として、農業用水を利用した山梨県北杜市村山六ヶ村堰水力発電所など5箇所。また、民間の導入事例として、トンネル坑内湧水を利用した東海北陸自動車道飛騨トンネル水力発電所など5箇所について発電方式、発電出力などの説明が行われた。

8. これから～課題と取り組み

生命は水から発生し、今でも水に大きく依存している。現在、地球上では12億人の人々が水不足とたたかっている。水に恵まれた日本でも貴重な資源として水の大切さを理解してほしい。また、太陽光、風力エネルギーは誰でも利用できるが、水は公共のもの、利用目的により各省庁が管理している、その水の持つエネルギーを効率良く利用する工夫が必要である。これからの小水力普及のための課題として、水利権の問題のクリアー、国、自治体からの支援、法的規制の緩和、小水力機器の開発、電力の買取価格の増額、容易な系統連系が必要となってくる。小水力普及の目指す方向としては、これまで電力会社主導により行われてきたが、これからは、地域主導による、地域の風土を活かした、地域のための開発が必要ではないか。

最後に、「まずは地球の未来のためにできることを行いましょう」と講演を締めくくりました。

約1時間と短い講演ではありましたが、化石燃料使用によるCO₂の問題、地球温暖化対策、原子力発電所放射能漏れによる環境破壊など、これからのエネルギーのあり方について、私たち建築士としても何かをしなければならないと考えさせられる、内容の濃い講演でした。

第5回子どもと作ろう!! ウッドクラフト

事業報告

社会貢献委員長 山田 功

10月8、9日の2日間、イオン佐久平店にて「子どもと作ろう!!ウッドクラフト」を開催致しました。今回で第5回を数え、多くの参加者を得て、無事終えることが出来ました。

内容としては、巣箱・プランター・CDラック・花台・イスの5種類の製作コーナー、ホットボンドを使用して木の枝や木の実を接着する、自由な工作コーナー、ふくろうの形の木切りに顔などを描くコーナーを設けて、子どもとともに楽しんでいただくイベントです。今年度から、製作するものを有料として開催致しました。



製作コーナーは、巣箱、プランターは30台、花台とイスは55台ずつ、新たにCDラック50台を加え、合計で220台を用意しました。

基本的には、子ども同伴の方の参加が条件ですが、有料とした事で、大人だけの参加もよいことにしました。



ホットボンド工作コーナーは、色々な樹種の枝や木の実を材料に、ホットボンドで接着して、自由に作るコーナーで、虫や怪物、クリスマス



マツリ、表札など等、本当に様々な独創的で面白い作品が出来上がりました。

ふくろう工作コーナーは5、6cmの輪切りの枝をフクロウの形に加工した材料に様々な色を使って目鼻などを描いて、台座に接着します。

ホットボンドコーナーとふくろうのコーナーは、隣接して設けてありますので、参加者は両方のコーナーを行き来しながら、それぞれの材料を使いながら製作を楽しんでいました。



建築士会の広報コーナーとして、本会事業の「私の景観」コンテスト入賞作品の展示、青年女性委員会活動で知事表彰を受けた「ねむの木ロード」を紹介するパネルの展示、「あなたの夢のおてつだい こだわりの家づくり」のキャッチフレーズを入れた、建築士会佐久支部の名入りのポケットティッシュの配布など「建築士会」を紹介することが出来ました。

最後に、材料加工にまた、参加・応援して下さった皆さん、本当にありがとうございました。この紙面をお借りし、お礼申し上げます。ありがとうございました。

平成22年度

元気づくり支援金優良事例表彰「知事表彰」を受賞

青年女性委員長 井出正臣

昨年、長野県の地域発元気づくり支援金をもとに活動を行った「佐久南インターチェンジ花・みどりの景観～植樹事業（通称：みんなでおむの木植えロード）」が、佐久地方事務所管内の最優秀事例である知事表彰を頂きました事を、改めて御報告致します。

小学校での景観授業、地域の方々に対する説明、建設事務所との打ち合わせ、小学生との植樹、看板作製、佐久市とのアダプト契約の調印と非常に多くの方々のご支援とご協力、更には情熱を頂いて大きな賞を頂けたという事は、長野県建築士会佐久支部として大きな誇りだと私は思います。



ねむの木という樹種を建築士会で選定するにあたり、農業や管理という問題で実際に私たちは地域や建設事務所での折衝に苦慮したという事実はあります。しかし、日本固有種であり、浅科から岸野へと現存するねむの木の並木を尊重するという意識こそが、景観形成であるという委員会の意思統一もあり、これに自信を持ち具現化出来た事は、私たちが、今「青年」であり「建築士」である価値を表現、実施できた成果だと確信しております。

建築士として建築物を造る、提案するという「一片」を担う事は日々の生活や業務の中で行う事はあっても、景観を創造するという「一辺」を形成するという事は実は日常になく、建築士が成す業でなかったという事実はあります。今

回、私たちは建築士「会」という集合体が、それを実現出来たというのは、今振り返っても奇跡だったのではないのでしょうか。

その昔、人は「家族」を重視し、文化が形成されて「村」という組織を重んじ、昭和初期には「国」という事に対して大きな愛情を注ぎました。敗戦により全てが崩壊し、「一個人」が重要とされ、その理想のみを実現する事が良しとされる今、私たち建築士会は連続し美を生み出す景観を作るという事を通じて、再度「地域」という文化を再形成する役割を担うべき時期に来ているのではないのでしょうか。

「建築士フォーラム2011 in 松代」

石塚 柳太郎

「建築士フォーラム 2011 in 松代」が昨年10月22日に開催されました。午前の大会式典+信州環境 ECO コンテスト+基調講演、午後のご当地の歴史遺産の見学です。ECO コンテストの課題は「信州型駐輪場」で参加は30作品、最優秀は長野工業、各賞は臼田高校、松本技専、長野高専、飯田長姫、長野工業、上田千曲でした。基調講演は名古屋工業大学大学院松本直司教授の松代の調査研究「江戸時代へようこそ」の詳説です。松代は松代藩10万石、真田家10代が居城した由緒ある城下町です。松代三町の泉水、家臣の作庭、松代焼など文物が紹介されましたが、皆様の方がよくご存じのことと思いますので午後の見学の雑感をお伝えいたします。

平成22年6月に公開された旧樋口家住宅は、武家屋敷町の中心的な位置にある一種の公舎で典型的な上級武士の屋敷構えだそうです。樋口家は目付役の重臣です。身分相応な門構えながら、主屋は端正で質素なたたずまい、質実で奢らない精神が感じられます。禄高は230石と聞いたので現在の価値を調べてみました。江戸時代通期で米(玄米)1石は約1両、貨幣博物館によると1両は米価換算で4万円、大工手間だと30~40万円ほどになるそうです。ひと桁の開きがありますから年収900万~9,000万か、ウンこれではよく分らん。藩の重役で

家来を抱え相応の付き合いができたが、宅地内で畑も作ったというのが樋口家の家計。ただ言えることは物価体系が今とはずいぶん違う、物の値段は高いが人件費は安いということでしょうか。薬師寺棟梁の西岡常一氏によると昔の大工は仕事が早かったということですので労務費は意外と安かったのかもしれない。そういえば古材をうまく使いまわして新築した例を数多く聞きくのはそんな物価事情からかもしれません。近代化以前はエコロジカルな生活が当たり前、地元の自然から得た材料を使い、古材もまた使いまわし、材は役目を終えたら自ずと自然にかえる、地元循環型の生活以外あり得なかったのでしょうか。

そういえば文武学校の瓦屋根が美しい。積雪のためか佐久地方より勾配がきつく、地元で焼いた瓦であろうか一枚一枚の焼き上がりの色が異なりそれらを平均に散らして葺いています。瓦に恋して瓦の庭を創作した出江寛氏によればこの焼きむらや雨水を吸込み変わる表情なども日本の感性を育んだといえます。現代の瓦は自動制御のトンネル窯で焼成するので均一で素材としてはおもしろくないとのこと。地産地消の地瓦がすたれてしまった現代では望むべくもないことですが、貴重な文化遺産をみるからこそ歴史にさかのぼり物事を考え直すチャンスがある日本人としてはありがたい示唆だと思います。そういえば、文武学校で漢学の講義が行われた文学所の室内が暗い。古来の住空間が仄暗いことの効用は谷崎潤一郎の「陰翳礼賛」に詳しいですが、見学当日は曇天でもあり紙障子は開けても半分で欄間があるものの書物を読むには実用的ではありません。畳にしばし正座するも天井が薄暗く…。照明を天井に吊るしたり壁に掛けることはせず行灯や燭台というスタンド式の照明装置を選択したのは、油やろうそくを用いる器具形式や木造建築の火災予防上の実用ゆえでしょうか。屋内は履物を脱いで床に座して生活する文化だからこそこれを良しとしたのでしょうか。当然、目線の高さは低く灯りも低いので床面は明るく天井は暗く、小屋裏はもっと暗い。世界中に幽霊のようなものがあるらしいですが、人型のは五体そろっています。日本の幽霊には足がありません。照明のおかげで足元は明るいからそれより上の暗い部分で幽体がぼんやり見えて鬼気迫る姿になるという構図です。足がないのは照明の方法~行灯のせいではないかと私は睨んでいます。現代の住まいは明るいので幽霊もさぞや出づらからう(いや、出たいところには出るでしょうが)。なんとか日本人のアイデンティティを守りたい和風好きのひとりとしては住まいの仄暗さの演出をどうにかせにゃと思う一日の終わりでありました。…また宿題が増えてしまった。

平成 23 年度事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
7. 1	第 2 回情報広報委員会	佐久ランドホテル
7. 3	玄江院本堂見学会	玄江院 (小諸市)
7. 5	東信ブロックゴルフコンペ	立科ゴルフクラブ
7. 9	定期報告講習会	御代田中学校
7.12	県青年女性委員会	長野県建築士会館
7.20	第 3 回三役会	佐久合同庁舎
7.20	第 3 回社会貢献委員会	佐久市研修センター
7.20	第 2 回 CPD 専攻建築士制度運営委員会	佐久ランドホテル
7.21	第 2 回県組織運営検討特別委員会	長野県建築士会館
7.29	エネルギーを考える～その 1～講習会	佐久勤労者福祉センター
8. 9	県木造塾運営委員会	長野県建築士会館
8.22	第 3 回県組織運営検討特別委員会	長野県建築士会館
8.24	第 4 回社会貢献委員会	佐久市研修センター
8.26	県三役会・理事会	長野県建築士会館
8.26	第 1 回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
8.31	第 3 回 CPD 専攻建築士制度運営委員会	佐久勤労者福祉センター
9. 2	三団体親睦ゴルフコンペ	小諸高原ゴルフコース
9. 8	第 4 回三役会及び第 2 回幹事会	佐久勤労者福祉センター
9.21	第 4 回県組織運営検討特別委員会	長野県建築士会館
9.22	エネルギーを考える～その 2～講習会	佐久勤労者福祉センター
9.29	第 3 回情報広報委員会	佐久ランドホテル
9.30	第 3 回総務企画委員会	佐久勤労者福祉センター
9.30	教育事業委員会主催講習会 (講師: 建築課職員)	佐久勤労者福祉センター
9.30	第 2 回教育事業委員会	佐久勤労者福祉センター
10. 5	県ゴルフ大会	豊科カントリー倶楽部
10. 5	第 3 回 CPD 専攻建築士制度運営委員会	佐久ランドホテル
10. 8～9	親子で作ろう! 「ウッドクラフト」	イオン佐久平店
10.14	エネルギーを考える～その 3～講習会	佐久勤労者福祉センター
10.22	建築士フォーラム 2011 in 松代	長野市松代町
10.24	佐久南インターの景観をつくる会片付作業	泉・岸野地区
10.29	建築士ネットワーク佐久・2011	佐久ランドホテル
11. 4	第 5 回三役会・第 1 回臨時幹事会	佐久市研修センター
11. 4	第 5 回県組織運営検討特別委員会	長野県建築士会館
11. 9	新法人選抜に関する説明会	佐久勤労者福祉センター
11.10	第 4 回情報広報委員会	佐久ランドホテル
11.11～12	三団合同体研修旅行	横須賀美術館他
11.18	第 2 回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
11.29	第 6 回県組織運営検討特別委員会	長野県建築士会館

東信ブロックゴルフコンペ結果

個人戦 優勝 望月 哲男 (佐久支部)
 準優勝 田中 稔 (埴科支部)
 3 位 有賀 健一 (上小支部)

団体戦 優勝 上小支部
 準優勝 佐久支部

3 位 埴科支部

三団体親睦ゴルフコンペ結果

優勝 赤尾 靖雄
 準優勝 小林 勲
 3 位 菊池 弘之

特別寄稿

雑感

長野県建築士会名誉会長

出澤 潔

昨年9月末に『サステナブルな社会のための建築』と題したブータン王国のティンレー首相の講演会に参加することが出来ました。「私達の国のシステムは本当に私達を幸せにすることが出来るのだろうか」「最近の建築は本当に人のために創られているのだろうか」。日頃すっきりしない気持ちでいる私にとって、大変興味のあるテーマでした。

ブータン王国が提唱している国民幸福度を土台にした首相の講演は、経済至上主義の思想を基に作り上げられている社会の脆弱さや虚しさを、世界各地に広がる経済破綻や民族の争いなどを現実の例として、私達に語りかけてくれました。そして、今こそ幅広い視野を持って「人々の幸せとは何か」「建築家として何が出来るのか」を考え次世代につなげるための努力が必要であると熱っぽく語り、講演を締めくくられました。

ブータン王国の国民幸福度については、首相に時をおかず来日された大変魅力的な国王夫妻によって、ブータン王国への親近感と共に日本国民の関心が高まった事はご存知のことです。国民幸福度(GNH)は国民総生産量(GNP)や国内総生産(GDP)などの経済的評価を価値基準とする世界の大勢に対して、仏教理念に基づいた国民の幸福観を指標としています。

人が求める幸福観はさまざまです。ブータン王国の幸福観は「経済発展と開発」「伝統文化の継承・振興」「自然環境の保全と持続可能な利用」「良い統治」を柱としていて、社会が目指すものは国民の幸福度実現であるとしています。

4本の柱に共通するものは人との絆、自然との絆、物との絆であるとその講演から私は強く感じる事が出来ました。

東日本大震災を契機にするまでもなく今、この国には「絆」が氾濫しています。それは今迄以上に人々が「絆」を求めている証左と云えるのかも知れません。でも本当に私達は人と、自

然と、物との絆を深めようとしてきたのでしょうか。そして、これからそうしようとしているのでしょうか。「自然との共生」「地域と共に」などと言われ、どの位の時が経っているのでしょうか。

私は私達の社会システムが「絆」とは違う方向に向かっているように思えてなりません。私達は生活するための効率化を目指して物事を分けて考える事に専念してきました。そして、その事は当然の事として受け止められ、それに異を唱える事には多少の勇気がある世界で生活しているように思います。それらは全てが当たり前の事であり、そうする事によって私達の生活の規律と秩序が保たれてきたのかも知れません。でも今、そうした秩序と規律が失われ、人そのものまでが分けられようとしているようにも思われます。

ティンレー首相は「自分は沢山の人と繋がっていて、なんて豊なんだろう」という子供の言葉を紹介し、教育の実践がGNHの実現に必要であると説かれました。そして、「幸福について子供達にどう話しているのか」という質問に対して「自分の親兄弟、祖父母、伯父伯母などを大切に思う心を育てる事」と答えられました。

来日したワンチュク国王は「……ブータン人は何世紀にも続けてきたように人々の間に深い調和の精神を持ち、質素で謙虚な生活を続けています。今日のめまぐるしく変化する世界において、国民が何よりも調和を重んじる社会、若者が優れた才能、勇気や品位を持ち先祖の価値観によって導かれる社会。そうした思いやりのある社会で生きている我々のあり方を、私は最も誇りに思います。……」と国会で演説されました。

幸せに生きていくためには様々な選択肢があります。私は、子供達が幸せに生活する事が出来るように、そして、良い選択をしてくれたと思うであろう事を考えて、今を生きなければならぬと思っています。今こそ、皆が幸せに生き合うための知恵を出し合い、未来の子供達を思うことが大切な事のように思います。

ブータンの高僧が『ゆっくりと。自分も他人も追い詰めては駄目。少し立ち止まってみては』と私達に伝えていると、メディアは報じています。

新任のご挨拶

佐久地方事務所建築課

技師 山本陽子

はじめまして。佐久地方事務所建築課でお世話になっております、山本陽子と申します。

佐久地方事務所建築課には平成21年4月から初任地として配属されておりました、2年間は住宅係に在籍しており、県営住宅の修繕等の管理を担当しておりました。

今年度より住宅係の廃止に伴い建築行政に異動となりまして、小諸市と佐久市の旧望月浅科地区及び立科町を担当させていただいております。

ご迷惑をおかけしてしまう事も多いかと思いますが、何卒よろしくごお願い申し上げます。

改めまして、新任のご挨拶と致しまして皆様に知っていただけるよう、簡単に自己紹介をさせていただきます。

出身は須坂市で高校まで過ごし、千葉工業大学工学部に進学したあとそのまま千葉県で就職をしております、9年間千葉県で過ごしておりました。

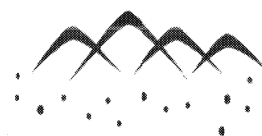
ひよんなことからUターンをいたしまして、長野県新規職員として佐久に配属されました。

そんな私にとって佐久は、佐久平駅周辺をはじめ賑わいもありケーキの街ということで近いお店を回り、温泉も遠くない場所にもありと、楽しく過ごしやすく、何よりもいつも浅間山が美しく、また、標高も高く晴天率も高い地域ということで良く星も見える素晴らしく美しいこの地域で働けることを、大変嬉しく思っております。

また、仕事については周りの方々のお力添えを頂きながら確認申請等の業務に携わらせていただいておりますが、様々な建築物を見させていただく事ができるのでなかなか面白くもあり、また貴重な仕事であると感じております。

その一方で非常に重みのある仕事でもありますので、それだけにいち早く自信を持って対応できるようになりたいと思っております。

至らぬ点も多くご迷惑をおかけしてしまうことも多いかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。



三団体合同研修旅行に 参加して

山 浦 伸 一

旅行記を書いてほしいといわれ、はい、わかりましたと返事をしてから早1ヶ月が過ぎた。思い返し振り返ってみると何か遠い昔の出来ごとのような、夢の中のことだったような盛りだくさんの旅行でした。



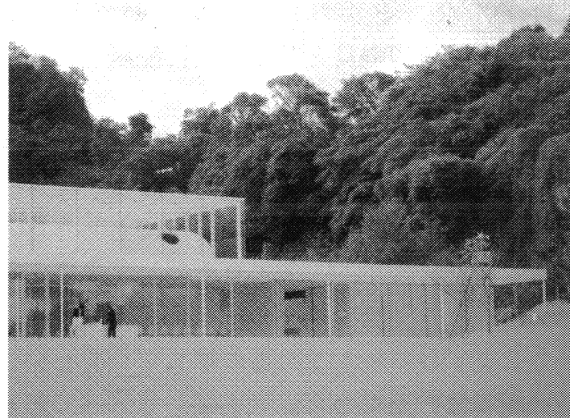
まず1日目、最初に見学したのは、上野にある「国際こども図書館」です。国土交通省関東地方整備局営繕部・安藤忠雄建築研究所・日建設計により歴史的建造物の保存と再生がされました。鉄筋コンクリートの建築を増築し免震工法を採用しています。免震部分が見学できず残念ですが1階の床から天井まで高さ20mの吹き抜けにある「片持ち出し式の鋳鉄階段」は見ごとでした。次に向かったのは、浅草の浅草寺です、ちょうどお昼となったので浅草の5656会館でお世辞にも面白いとはいえないショートコートを聞きながらの食事を済ませ、食後は、皆お揃いで浅草寺をお参りしていきましょうという打ち合わせにも関わらず5名が先行し迷子になるが浅草棧橋で一緒になれて良かった。浅草棧橋からは、アサヒビールの本社と並んで東京スカイツリーがはっきりと見えました。隣の舳斗雲（きんとうん・通称うんこ）と合わせ素晴らしい眺めでした。でもこの素晴らしい眺めを見ることが出来たのは迷子の5人でした。他の方が到着したとき東京スカイツリーは雲の中です、残念でした。浅草棧橋からは水上バスに乗り隅田川下りです、隅田川に架かる13の橋の見学ということですが雨が降っているのと硝

子が曇っているのとで橋の橋脚が見えただけです。ちょっとがっかり。1日目はこれでおわり、後は一目散に東京アクアラインを経由し、千葉小湊鯛の浦温泉に向かう。夜の宴会は盛大でもよかったですよ。

2日目、宿を出発し車窓より亀田総合病院(今も発展し続ける総合病院)と鴨川シーワールドを見学しながら房総半島の内陸道を金谷港へ向かう。金谷港で船を待つ間、産直店を覗くと桃くらいの大きな柿があり、値段を聞くと150円位だという。お土産を買ってから改めて柿を買いに行くと300円と言われて驚いた、それでも買って食べたがけっこう良かった。

フェリーで約1時間後久里浜港に着き本日のメイン会場「横須賀美術館」(山本理顕設計工房 設計・監理)に向かう。

横須賀美術館は、なんて言ったらよいのでしょうか、ガラスの箱とでもいうのでしょうか、外壁も屋根も全てガラスで出来ています。屋根全面がガラスというのは珍しいし、しかもほとんどフラットであることに驚きましたがその美しさに大変感激しました。また屋根を支える構造に関しても説明を聞いてもう一度ビックリ、内部を構成する鉄の箱の天井面を下辺としたトラスとしてあるそうです(屋根、壁共外面



はガラス、内面は鉄板のダブルスキン構造)。屋根上には遊歩道もあるし雨漏りはしないだろうか、結露はしないだろうかと気になった、設計した人、施工した人の想像力と技術にただただ感服しました。その後横須賀「どぶ板通り」を見学し帰路につく。都内では首都高速道を帰る我々のバスをスカイツリーがずーと見送ってくれた。さあ明日から又仕事だ。

会員の声

「建築士会佐久支部に 入会して37年」

荒井 央

入会したのは昭和49年(1974年)でした。今言うUターン組でした。

以後支部が大きく変わったことは建築士会佐久支部から大きな新建築士会佐久支部に変わったことです。役員は理事10年間、副支部長を2年間勤め平成元年の建築士会佐久支部合併をみて辞しました。その後、もういいだろうの声もありましたが情報・広報委員として活動に参加しています。

会報「あさま」そして前編の「ちくま」の発刊、各創立記念誌の発刊に編集員として携わってきました。編集員としてできたこと、仕事はさておき、幾つかの趣味があります。

それは愛玩犬の飼育、それらや山野草ことにキノコや歳時写真撮りことですが情報・記事集めに役立ちました。



会員としてよかったこと、活動を通して多くの先輩会員と知り合いになれたことと共有できるものを得たことでした。これらのお付き合いは今も自分の道しるべになっています。

その先輩の中に今年8月に亡くなられた土屋晴男さんがおられます。土屋晴男さんは前述の「あさま」「ちくま」の発刊はもとより先頭に立って前佐久建築士会の解散から合併にいたる記念事業の一環である「あしあと」そして後ろで支えた「軌跡と翔」の編集発行に尽力なされ、当建築士会に無くてはならぬ方でありました。

氏は生前「道」なる本を出版しました。それはA5版で400Pageにおよぶもの。ご自分で編み出した「蒼晴画」をまとめた集大成、自分史でもありました。

ご自分を取り巻くあらゆるものへの慈しみでいっぱいでした。生きた証として「夢と希望と弛まざる道」の力強い言葉を残した行きようは誰が見ても共感持てることばかりです。これからの道しるべになるものと感銘しました。

会員暦が長い諸先輩をさておき今、小諸善光寺に眠る土屋晴男さんを偲び筆をとることができましたことにお礼申し上げます。

今後とも一士会々員として活動したいと思っています。

宜しく願いいたします。



第11回佐久地域建築文化賞入賞者

○最優秀賞（地方事務所長賞）

一般部門 該当者なし

住宅部門

設計者	甘利享一（甘利享一建築設計舎）		
所在地	小諸市八満	作品名	八満の家

○優秀賞

一般部門

設計者	甘利享一（甘利享一建築設計舎）		
所在地	小諸市大字滋野	作品名	みはらし交流館

住宅部門

設計者	甘利享一（甘利享一建築設計舎）		
所在地	御代田町塩野	作品名	五角筒の家

○特別賞

一般部門

設計者	鎌田賢太郎（長野県建築士会佐久支部青年女性委員）		
所在地	佐久市下平・桜井	作品名	ねむの木植えロード表示看板

住宅部門

設計者	菊池弘之（菊池ひろ建築設計室）		
所在地	軽井沢町長倉	作品名	軽井沢鶴溜の家

○奨励賞

一般部門

設計者	大竹雅英（旬岳建築設計）		
所在地	小諸市上の平	作品名	フェリーチェ音楽教室

住宅部門

設計者	中村貴久（建築設計室空宙）		
所在地	御代田町草越	作品名	御代田町の家～天空を眺める家～

設計者	山浦伸一（㈱Do建築設計企画）		
所在地	佐久市桑山	作品名	陽のあたる家

●編集後記

11月の終わり、臼田駅近くの佐久の花酒造を取材しました。庭先ではおぼちゃんが大きな漬け物樽を横に野沢菜を洗っていて忙しく冬の準備をしていました。蔵ではちょうど酒造りの真っ直中、ぶーんと甘い香りが漂い、酒樽の中ではぶくぶくぷっくんと発酵、面白く見入ってしまいました。ふるい建物の内には酒造りの神様がいらっしゃるような感じがしました。佐久平の向こうの浅間山の上に広がる青い青い空に、気持ちが洗われるようでした。ご寄稿頂きました皆様お忙しい中ありがとうございました。（藤巻宏康）

会報『ちくま』第46号 2012/1
 発行者 (社)長野県建築士会 佐久支部
 情報・広報委員会
 事務局 〒385-8533 佐久市跡部 65-1
 佐久地方事務所内
 TEL 0267-63-8080
 FAX 0267-63-3330
 E-mail ken.8080@aba-saku.org
 支部HP <http://www.aba-saku.org>
 印刷所 株式会社 中 信 社
 TEL 0267-67-2152